

FY2020 (2020年3月期) 第2四半期決算説明会での主な Q&A

第1回：2019年10月31日 (Q1~13)

第2回：2019年11月29日 (Q14~17)

Q1 HD：営業利益の「その他」は、上期が7月予想 15億円から 9億円で収まっているが、通期は 30億円と変化なく、下期予想が悪くなった。何か、バッファーとして見ているのか、特別な理由があるのか？

A1 研究費の分配が下期に多い他、若干のバッファーもある。

Q2 HD：次期中計の考え方で、フォーカスされるポイントは？

A2 現在まだ策定中にて詳細はお伝えできないが、従前どおりの新規事業注力に加えて、キャッシュ創出にこだわりたい（収益性、投下資本利回りなど）。

Q3 SPE：ファウンドリー投資が強い中、営業利益予想を期初計画より下げている理由は？

A3 プロダクトミックスによるもの。

Q4 SPE：CY2019のWFEは前年比+5~10%だとの見方は、事業構造（製品構造）上から見える想定かと思われるが、アプリケーション別のイメージは？

A4 現在、ファウンドリーからの引き合いが強く、来期も継続すると見ている。来期は、メモリーの立ち上がりを楽しんできよう（今期比でプラス）。ロジックは引き続き来期も堅調と見る。

Q5 SPE：過去の営業利益のピークを更新できるのはいつ？

A5 過去最高益の2期前のSPE営業利益率予想は、通期で13%強だった。今回の下期利益率予想は15%程度で、改善基調にあり、次期中計に入る来期以降においては、四半期、半期というレベルで20%を目指す目標感を置くことになる。その上で通期の達成が視野に入ってくる。

Q6 SPE：ファウンドリーからの受注が強く、来年も高水準だと言われているが、下期の受注水準は？

A6 四半期での読みは難しいが、下期を3Q、4Qにならすと、1Qレベルの受注が得られるだろうと見ている。

Q7 SPE：韓国ビジネスについて。特にNANDでは、特定プロセスでの業界スタンダードを取るとのことだったが、受注が来るのはいつごろを想定？

A7 PORを持っているが、まだ時期など、具体的な話は出ていない。

Q8 SPE：最大手以外のメモリーメーカーは設備投資減額と言われる中、来期に期待している背景は？

A8 いわゆる大手メモリー各社には、まだ不透明感が強いものの、中国新興メーカーは強含むと予想。

Q9 SPE：現状、ファウンドリー投資が強く、上方修正を期待したが、小幅に留まった感がある。
その背景は？

A9 2Qの（最先端投資への）受注分は、今期中に納入予定。今後また大きくなる可能性はあろう。

Q10 SPE：中国設備投資、顧客内でのシェアイメージは？（既存企業と新興企業内でのシェア比較）

A10 新興メーカー内では、既存メーカーより高いと考える。但し、顧客企業では、ローカルメーカーをあえて使われることもあり、100%ではない。他方、これまでのところ、失注するようなことはなかった。

Q11 SPE：収益改善だが、今後、3Q、4Q、来期に向け、何を改善していく？

A11 変動費率の改善がメイン（トップライン <プロダクトミックス>により、収益性は多少異なると予想）。現在の予想は、想定を超える受注が来ており、予想の段階では、ある程度引き当てなども念頭に置いており、実績値との単純比較はできないため、若干保守的に見えるかもしれない。

Q12 SPE：3Q、4Qの受注について、アプリケーション別での想定は？

A12 ファウンドリー、ロジック、画像素子が強いと見る。

Q13 FT：今のディスプレイ業界は、G10.5は厳しく、代わりにG6系のOLEDが増えるなど、ポジティブ、ネガティブの両面がある中、来期はどんな年になりそう？

A13 当社にとっての来期は、大型（G10.5）は継続、（採算性の高い）今期からのスライド案件が予定されていることから、利益は増えると見ている。

>>追加（2019年11月29日）

Q14 SPE：下期の営業利益率予想（約15%）の達成に対する自信は？また、以前からの目標である通期ベースでの20%にはいつ到達する想定か？

A14：下期15%予想については、1Q決算時よりも受注（予測）内容などのビジビリティも上がっており、先行き不透明感が減少したと実感。20%目標に関しては、来期にスタートする次期中計の中で、達成したい。その場合の想定トップラインは、以前の計画よりは低い（よりハードルの高い収益性改善を目指す）。

Q15 GA：2Qは前四半期比で大きく改善したが要因は？また今後の動向は？

A15：1Qでクロージングしきれなかった商談が2Qに実現し、売上が増加。なかでも、国内でのPOD販売が想定以上に推移しことも寄与。また、増収に伴い、営業利益も改善。加えて、前期に計上した事業構造改善費の効果も寄与した。下期は、市場環境を見つつ、売上が堅調なインクを中心とするポストセールスを軸に、収益改善を目指す。

Q16 FT：2Qは1Q比大幅収益改善したが、下期は7月予想比下方修正。現在、どのような状況か？

A16 1Q決算の際に説明したとおり、主に大型（G10.5）に対する引き当ては2Q以降での予定はな

い。他方、一部案件は来期へスライドする可能性が高くなっており、今回の下期予想（売上、営業利益）にはそのマイナス分を織り込んで変更（受注のキャンセルではない）。

Q17 PE：PCB 市場は厳しそうだが、今後の動向は？

A17 前期上半期まで強かったスマホ関連投資は依然、低迷。下期は、スマホの状況は改善若干傾向にあるものの、業績反転には至らない。但し、車載向けに加えて、5G 向け端末関連投資による売上増は期待できる。

備考

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、

FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

以上